

平成 23 年度第2回長野市文化芸術振興審議会 要旨

【開催日時】 平成 24 年3月 15 日(木)午前9時 30 分から正午まで

【開催場所】 生涯学習センター4階大学習室1

【出席委員】 中山裕一郎委員、宮澤博委員、土本俊和委員、小林一美委員、海沼和幸委員、小林玲子委員、山岸恵子委員

【出席職員】 堀内教育長、酒井教育次長、久保田生涯学習課長、山口文化財課長、林部生涯学習課文化芸術推進室長、柳澤生涯学習課係長、西澤生涯学習課主査、吉岡生涯学習課主査

【議事】 (1)新市民会館運営管理基本計画(案)について

事務局より資料に基づき説明。

(2)平成 24 年度優先施策について

事務局より資料に基づき説明。

主な内容(質問・意見)

1 新市民会館運営管理基本計画(案)について

(委 員) 3年間の直営・専門家の配置は既に決定した事項か

(事務局) (案)の段階である。

(委 員) 過日開催されたと特別委員会での議論内容は

(事務局) 当初から財団を目指した組織作りと、専門家の配置についての意見があった。現在、公益法人の認可が困難な状況であるため、将来的には公益財団法人も視野に入れ検討していきたい。なお、先が見えない中で、財団化してしまうとリスクも伴う。

専門家は、直営の間は任期付き職員等で採用する予定。

なお、芸術監督は、名前だけで、年に数回しか館に来ない例もあることから、必要性について3年の間に検証する。

(委 員) 専門家の採用予定は

(事務局) 平成 24 年度中に専門家についての予算化と、招聘や公募の作業を進めたい。

(委 員) 市では、指定管理者制度を導入しながら、今更、直営とする理由は

(事務局) 市として、文化芸術振興を推進する必要があるほか、今までと事業規模が違うことから、当初から指定管理者へ委託するすると事業や経費の評価が難しく、また、指定管理料の算出が難しい面もある。

(委 員) 平成 25 年度から専門家が組織に入ってくるということだが、予算化はされ

ているのか

(事務局) 平成 24 年度は専門家の配置については予算化されていない

(委員) アドバイザーの予算化とメンバーは

(事務局) 予算化している。メンバーは、本審議会から、中山会長、宮澤副会長に参画いただいているほか、県文化振興事業団の係長、座高円寺支配人のほか、芸大の音楽、音響の先生方に参画いただいている。

(委員) 「長野らしさ」という大きな方向性について、長野市はこれで行くんだという方向性の提示や必要性についての説明がないと特色化が図られないのではないか

(事務局) 松本や飯田では事業で特色化が図られているが、「長野らしさ」は事業だけでなく運営面からも考えることができる。例えば、運営について市民参画といった面で特色化を図ることもありうる。

先ずは、市民とともに、自主事業を展開するなどのなかで、長野らしさを見出すところからのスタートとなる。

(委員) 今まで文化芸術活動に関わっていなかった方に対して、文化芸術を広げていくことは重要であるが、新たなまちの賑わいを目指すことは今までも容易なことではなかった。もっと広く市民を巻き込んで大きな動きになっていくことを望む。

(委員) 運営主体の項で、適正なデータの収集とあるが、設計の段階で施主側が厳しいことを言っていないとエネルギー消費の多い施設になる危険がある。

また、市民会館へ通じる公共交通の整備も含めて考える必要がある。

県内でも、上田市では上田駅に近いホールが建設されることなどから、市内だけでなく市外からの利用者と呼び込むために、他のホールとの競争関係、位置づけをしっかりと考え、危機感を持って運営に当たることが必要。

(事務局) 設計については、設計者の意見を鵜呑みにすることなく、市において十分に検証していく。

また、利用者は施設間で取り合うのではなく、新たな利用客を創出するような運営に努めていきたい。

(委員) 休館日は年末年始のみとなるのか

(事務局) 条例上は、年末年始となるが、現実的には、施設のメンテナンスのため月 2 日程度は臨時休館となることを想定している。

(委員) 自主事業はホール数が増えるから単純に増と組み立てるものでなく、年間スケジュールの中で、計画的に実施されるものであり、年間 70 本は 4～5 日に 1 本実施されることとなるが、非常に厳しいのでは

(事務局) 70 本全て異なる創造事業を行うというのではなく、経費のかからない人材育成のためのワークショップの継続開催や、また、反対に、経費のかかる事業など事業内容が異なる。

会場も、ホール以外に練習室なども想定されるが、全てホールで開催するとした場合、各ホールで月に 1～2 本程度の開催となる。

(委員) 新市民会館が、市民に愛される建物・運営となるよう、特に使い勝手の面で柔軟な対応が望まれる。

(委員) 3 年間をかけないと、データの収集ができないのか、また、他のホールで財団化されている理由と、市では、3 年後には財団化を考えているのか

(事務局) 新たな施設であり、既存の実施データがないなかで、最初から財団化してしまうことは、財団化のメリットが見えない中で、リスクを伴う。

他のホールの多くは既存の財団があり、計画策定段階から財団による運営を見越して計画作りがされているところが多い。

将来的には、財団化も選択肢の一つとはなる。

(委員) 上田は、ホールの周りに大きな商業施設もできており、注目度も高い。長野市の特色化を図るためには、基本計画の理念の中に具体的に市の方針を書き込む必要があるのではないか

(事務局) 長野市は県都としてのポジションの中で「教育」が重要な要素となっており、新市民会館の 4 つの役割の中で、「育む」、「つなぐ」が特色となりうるものとする。稼働率 70%、自主事業 70 本を展開していくことにより、長野らしさに繋がっていくものと思う。

財団は望ましい形と考えるが、まずは、必要なデータを集めたうえで、組織については慎重に検討する必要がある。

環境については、検討委員会の提言時もうたわれており、設計に当たっては、省資源をコンセプトとしているところである。

(委員) どのようにホールに行くのか、公共交通の形が見えないと来る気がなくなるのではないか。また、搬入導線はあるのか、昭和通りの渋滞対策も考慮しているのか、芸術文化の普及は良いが、経営の概念もないと失敗する可能性が高い。特に、公共交通と連携していく必要がある。

(事務局) 長野駅から新市民会館にいたるプロムナードは、野外彫刻を含めどう考えていくか課題として捉えており、公共交通などアクセスは重要な要素と考えている。

(委員) プロムナードなどの周りに余韻を楽しむ場所として食事できる場所などを併せて考えて欲しい。

2 平成 24 年度優先施策について

- (委 員) 街角に音楽があるまちづくり事業の中で、トイーゴ広場での開催を想定しているが、オーロラビジョンの音声と重なるのではないか
- (事務局) 既にトイーゴ広場で音楽活動が行われている。
- (委 員) 音響的にきちんとした場所での開催が望まれる。
- (委 員) 野外彫刻についての認知度が低いと思われる。公園への設置は、景観全体を考えて設置しているのか。箱根の森のように集約する方法が効果があるのではないか
- (事務局) 認知度が低いことは承知している。このため、認知をしていくための PR などの努力をしていきたい。設置に当たっては、作家に現地に見合う作品の制作を依頼している。また、配置については、今後、市民が鑑賞しやすいよう計画していく。
- (委 員) ニューヨークのように、作品を街の中に置くには作品が小さく、また、彫刻のあるところに草が生えているところもあり、環境整備が必要。また、金額の割には魅力がないという声もある。
- (委 員) 街並みの美学になっていない。場所にそぐわない作品もある。
- (事務局) 野外彫刻の課題については、より、作品が親しまれるよう、ソフト事業などを充実するなどの努力をしていく。
- (委 員) 県内では、ホクト文化会館や伊那文化会館などに、元気がある学芸員がいる。事業を進める上で、長野県全体を見て連携を図って頂きたい。